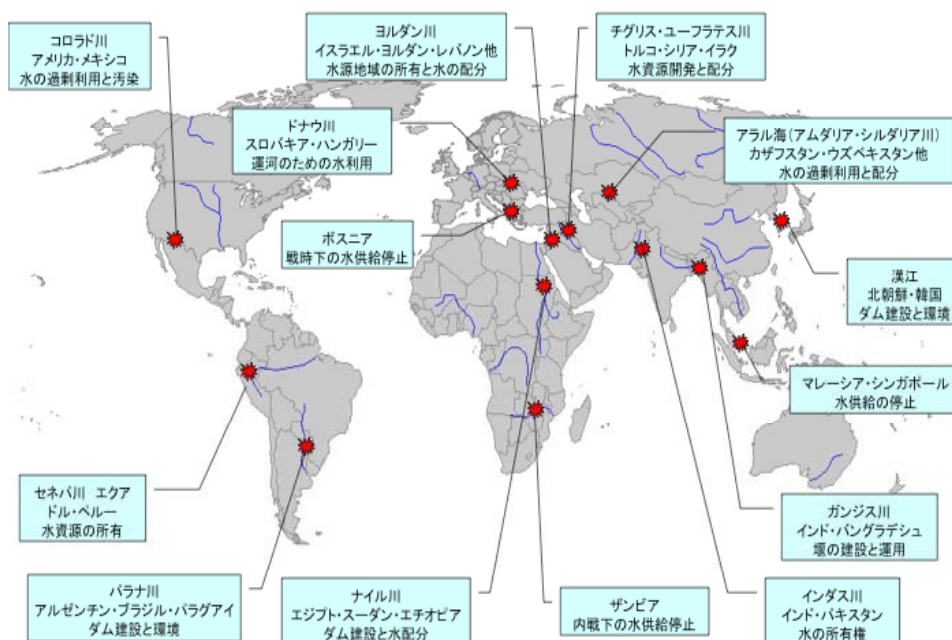


1.3.2 水紛争から水協調の時代へ

国際河川によって上流下流の関係にある国々は、大規模な大陸の洪水に悩まされたり、上中流部の開発が下流の水環境を徐々に悪化させていったり、水利用の権利を巡って紛争を起こしたりというふうに、国際的な水問題を抱えている。2004年12月末にスマトラ沖地震で経験したように、海を隔てて向き合うインド洋沿岸の国々が同時に広域的・大規模な津波災害に飲み込まれる例もある。このような甚大な被害が発生した場合、世界中が注目し、被害地域に対する助け合いの精神が発揮される。その一方で、我が国は、食糧の60%を海外の土地資源・水資源・労働力に依存しているため、海外で異変が起きると大きな影響を受ける可能性がある。すなわち、海外の水事情や社会情勢は、我が国の存続にもかかわる大問題である【図1】。

世界の水紛争マップ



"The World's Water", Peter H.Gleickと"Water", Marq de Villiersの資料をもとに第3回世界水フォーラム事務局作成

【図1】世界各地の水紛争の例

水問題は、このように、多様で時間的に変化し地域性・国際性を持つ。そしてそれは、各国・地域のさらには世界の政治・経済・社会と密接な関わりを持っていることが理解できよう。【図1】のようなマップを例示すると、水に関する競合や紛争が強調されてしまう。20世紀は石油の奪い合いで戦争が起こったが、21世紀は水の奪い合いで戦争が起こる、などというキャッチフレーズは、必要以上にいたずらに当事者を刺激しかねない。むしろ、このような図は危機をあおるというよりは、国際協調や貧困の撲滅を期することの重要性を示唆していると解した方がよい。実際に、ナイル川沿いのアフリカ諸国が第3回世界水フォーラムにおいて示したように、上下流が協調し合い、水を互いの理解と協力のためのきっかけとしようという動きがある。紛争の潜

在可能性 (Potential Conflict) から協力の潜在可能性 (Cooperation Potential) へというキャッチフレーズで、ユネスコと国際緑十字 (Green Cross International) の間で PC→CP という紛争を避け平和を指向する国際共同事業が始められている。